



「フムフム」は
アイヌ語のあいづち

アイヌ語のこよみ 季節や暮らしを表現

みなさんはどんなカレンダーを使っていますか？ アイヌ民族文化財団は、アイヌ語カレンダーをホームページでしようかしています。

日本語には1月、2月、3月のほかに、「睦月」「如月」「弥生」という古い呼び方があります。アイヌ語の各月の名前にも、昔のアイヌの暮らしが表れています。旭川市などで使われてきた月名を見てみましょう。1月はイノミチュプと呼びます。「いのる月」という意味があります。和民族の正月の文化を取り入れたものでしょう。

2月のタシクルチュプは「寒さの月」、3月のトエタンネは「日が長くなる月」と呼び、季節の変化がよく分かります。5月、ムンドッカチュプ（草を生やす月）になると、山菜の収穫が本格化します。

畑仕事を始める6月は、その意味をこめてトイタチュプと呼びます。ヒエやアワ、イモ、カボチャ、豆、トウキビなど、さまざまな作物

を作ってきました。

夏は漁の季節です。7月はクンネヤシチュプ（夜にあみを流す月）、9月はヤシチュプ（あみを流す月）です。ヤシというのは、昔の漁の方法です。2せきの船の間にあみを張り、マスなどの魚をとります。8月のクンネスシチュプは「夜、水浴びする月」という意味ですが、この水浴びも川で魚をとることを指します。

同じ月でも地方によって、呼び方がちがいます。日高地方新ひだか町静内の10月はウレポク、サケ漁に出て足の裏に砂が付くという意味です。川をさかのぼって来たサケをとる時期だったことが伝わります。12月はクエカイ、仕かけ弓がこおって折れる月だそうです。

アイヌ民族文化財団は、樺太地方（サハリン）や道内各地の言葉で書かれたカレンダーもしようかしています。

（北原モコットウナシ）

